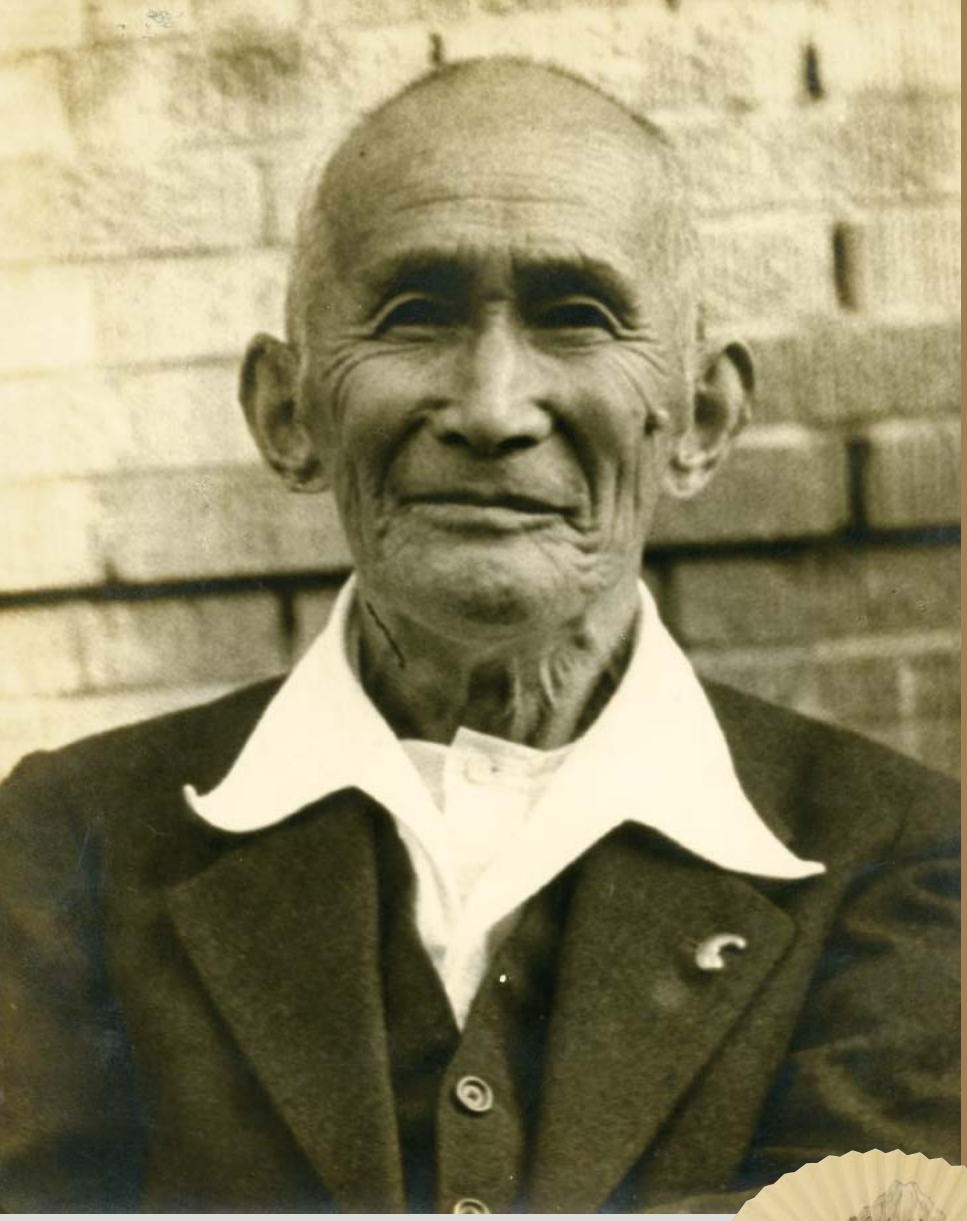


特集 故郷とともに

清水南山

―三原が生んだ偉大な彫金家―

▲釣人図（左）、富士図（右）（三原市蔵）

▲彫金　東海旭日文香爐（三原市蔵）

「南山先生」。近代金工の巨匠を地元の人たちは親しみを込めてこう呼びます。明治から昭和にかけて活躍した三原市出身の彫金家 清水南山。「日本の伝統的金工の真髄を受け継いだ最後の彫金家」と称される偉大な芸術家です。その卓越した技巧で格調高い作品を世に送り出し、名声を得てもなお、故郷とのつながりを大切にした温かい心の持ち主でもありました。

市は、南山の孫である田畠能子さんから、作品やゆかりの品など計1,116点の寄贈を受け、新たに所蔵。これを機会に、新所蔵品約50点を中心に紹介する特別展「清水南山展―新収資料を中心に―」を開催します。ぜひ会場にお越しいただき、郷土の誇りであり、日本を代表する彫金家である「南山先生」の素晴らしさに触れてください。

幸崎から特選生として東京美術学校へ

清水南山は明治8年、豊田郡能地村（現在の三原市幸崎能地）に生まれました。本名は亀蔵。幼少期から絵を描くことが好きでした。

明治24年、広島県初の特選生として東京美術学校（現在の東京藝術大学）へ入学。たがねで金属に細密な模様を彫刻する彫金を専攻し、伝統技法の習得に励み、卒業後も学校に残って技術の研さんを重ねました。

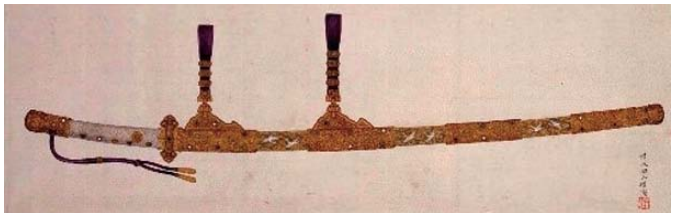
その後、香川県の工芸学校で教師となりましたが、芸術追求への思いを捨て切れず、辞めた後、奈良県の法隆寺で古美術の研究に打ち込みました。修行を終えた南山は大正5年、妻子とともに再び上京し、鋳物工場で働いて生計を立てながら、彫金家の道を模索しました。

▲清水南山生誕の地（幸崎能地七丁目）

日本を代表する彫金家に

転機となったのが、大正天皇への献上品の制作を依頼されたことでした。制作するはずだった彫金家が急逝したため、急きょ、抜てきされたのです。

そのとき制作した「金装螺鈿御飾太刀拵」には、これまで磨いてきた技術がいかんなく注ぎ込まれ、後に「大正時代を代表する装剣金具」と評されるほどの仕上がりとなりました。



▲金荘螺鈿御飾太刀之図（広島県立美術館蔵）

この功績が評価された南山は、大正8年に東京美術学校教授に迎えられました。昭和9年には当時の美術家にとって最高の栄誉とされた帝室技芸員に任命され、日本彫金会会長、帝国美術院会員などを歴任。名実ともに彫金界の頂点に上り詰めました。

熱心に学生たちを指導しながらも意欲的に創作を続け、帝展や日展などの展覧会に出品。伝統的な金工技法を用いた格調高い作品は高く評価され、「梅花文印櫃」などの代表作を残しました。

大切にし続けた故郷

昭和14年に幸崎小学校、昭和22年に幸崎中学校の校章を創案するなど、名声を得てもなお、故郷とそこに住む人々を大切にし続けました。

太平洋戦争が終結する1カ月前、東京美術学校を退官して故郷に疎開し、そこで終戦を迎えました。戦後、物資が乏しく、材料や工具などが思うように手に入らない中でも、創作活動を続けました。

昭和23年、結核性腹膜炎を患って病床に伏し、12月7日に東京の自宅で亡くなりました。享年73歳でした。

南山は、日本画の大家である平山郁夫の祖母の兄であり、平山郁夫が少年時代に画家になることを勧めた人でもあります。

現在、市内では「彫金 東海旭日文香爐（三原市蔵）」など作品7点と清水南山遺品（郷土と南山先生を語る会蔵）が市重要文化財、清水南山生誕の地が市史跡に指定されています。

▲市が新たに所蔵した「雲文香炉」

問文化課 ☎0848・64・9234

参考文献

「彫金家 清水南山 広島が生んだ近代金工の巨匠」（平成29年）広島県立美術館編集

「ものがたり清水南山（上）」（平成14年）郷土と南山先生を語る会・三原市立幸崎小学校編集

「ものがたり清水南山（下）」（平成15年）郷土と南山先生を語る会・三原市立幸崎小学校編集

「郷土三原ゆかりの人たち」（平成15年）三原市立図書館・三原市歴史民俗資料館編集

▲南山や郷土の文化について語り合う南山会の皆さん

特集

故郷とともに 清水南山
―三原が生んだ偉大な彫金家―

郷土の文化と南山先生を語り継ぐ

清水南山の功績やその精神を語り継いでいる人たちがいます。南山の地元、幸崎能地を中心に活動する「郷土と南山先生を語る会」、通称「南山会」の皆さんです。南山会は昭和56年、当時、幸崎中学校の校長だった小林徳蔵さんが中心となり地元の有志で結成されました。

幸崎能地に生まれ、当時の美術界では最高の栄誉といわれた帝室技芸員にまでなった南山。

▲南山の生涯を分かりやすくまとめた「ものがたり清水南山(上・下)」

「郷土にこんな立派な人がいるのだから、功績を顕彰(けんしょう)し、語り継いでいこう」と、会員の皆さんは南山についての資料を集めて、研究を始めました。

「努力家で、粘り強く逆境を乗り越えた人。知れば知るほど、その人柄にひかれていった」と会員の皆さん。研究成果をまとめた書物を発行し、講演や展示会を開くなど、埋もれていた南山の功績を発信していきました。

南山の生涯を分かりやすくまとめた副読本を作成し、幸崎小・中学校に寄贈しました。学校からの依頼があれば、授業で話をするなど、子どもたちへ南山のことや郷土の文化を伝える活動にも力を入れてきました。

毎年3月に開催される「能地春祭り」では、活動の拠点となっている南山資料館で、南山の作品とともに幸崎の子どもたちの作品も展示しています。

結成から今年で37年。「南山先生は幸崎の誇り。功績や地元の文化をこれからも継承していきたい」と活動を続けています。

▶南山会の皆さんが活動の拠点にしている南山資料館(国登録有形文化財)

インタビュー

郷土と南山先生を語る会
会長　阪田光昭(さかたみつあき)さん

「南山先生についての研究がきっかけとなり、地元で交流が生まれました。作品の素晴らしさはもちろん、南山先生の精神や温かい人柄も知ってもらいたいです」

問問い合わせ先

幸崎中学校に息づく南山先生の教え

「三つの輪 固く結んで 共に」。幸崎中学校の校歌にはこんな歌詞があります。清水南山が同校の校章に込めた意味を表した詞です。

故郷の子どもたちを思う南山は、同校の開校時、生徒たちへの思いを込めて校章をデザインしました。その思いは代々の校長へ受け継がれ、毎年の入学式と卒業式では、校長が校章の由来を説明するのが恒例となっています。校内には南山の写真や生徒が制作した作品の模造品が飾られるなど、南山への思いがあちこちに息づいています。

生徒たちは日々の学校生活を通じて、自然と「南山先生」への尊敬と親しみを深めているのです。

生徒会が中心となって年2回行なっている地域の清掃活動では、訪れた人が気持ちよく見学できるようにと、生家の跡地にある南山碑の周りをきれいにしています。

南山の教えは学校から生徒へ、そして、先輩から後輩へと引き継がれています。

▲清掃活動のようす

インタビュー

幸崎中学校生徒会
岡田季桜（おかだきお）さん（右）
小畠優香（おばたゆうか）さん（左）

「自分たちのしている活動や学校の伝統を後輩たちにも引き継いでいきたいです」（岡田さん）

「南山先生の話は、幸崎中を卒業した父からも聞きました」（小畠さん）

校章に込められた故郷の子どもたちへの思い

昭和22年、幸崎中学校の開校式で南山は自ら創案した校章を披露し、生徒の前で校章の意味をこう説明したといいます。

「3つの輪には3つの意味がある。1つ目は、この中学校に入学する3つの小学校区から集まった生徒が力を合わせている姿を表している。

2つ目は、3つの輪が知、徳、体を表している。ひとりひとりが可能性を最大限に伸ばすことをめざし、知、徳、体を調和させ、鍛え、これらを兼ね備えた人になって欲しいという願いを表している。

3つ目は、3つの輪が赤、黄、緑の原色に塗り分けられているのは、あらゆる色がこの3色を基にしていることを意味し、基本を大切にするという生き方を忘れてはいけないという戒めを表している」。

南山は、校章に郷土の若者たちが、人生をより良く生きていくための教訓を込めました。そして、「人の輪を大切にする」「知性と人格、体力を兼ね備えた人となる努力をする」「基礎や基本を大事にする」というこれらの教えは、同校の教育方針として脈々と受け継がれています。

南山の思いのこもった校章は今日も、生徒たちの成長を見守っています。

清水南山展
―新収資料を中心に―

南山の孫である田畠能子さんから寄贈を受けた作品やゆかりの品を中心に、約50点を展示します。伝統的な金工技法を用いた格調高い彫金作品や、南山の人物像を知ることができる資料などを、ぜひ会場でご覧ください。

▲彫金　波頭帯留（なみがしらおびどめ）

と　き　5月24日（木）～6月10日（日）9時～17時
ところ　市民ギャラリー（ペアシティ三原西館2階）
内　容　市が新たに収蔵した清水南山の作品などの展示
入場料　無料
問文化課（☎0848・64・9234）